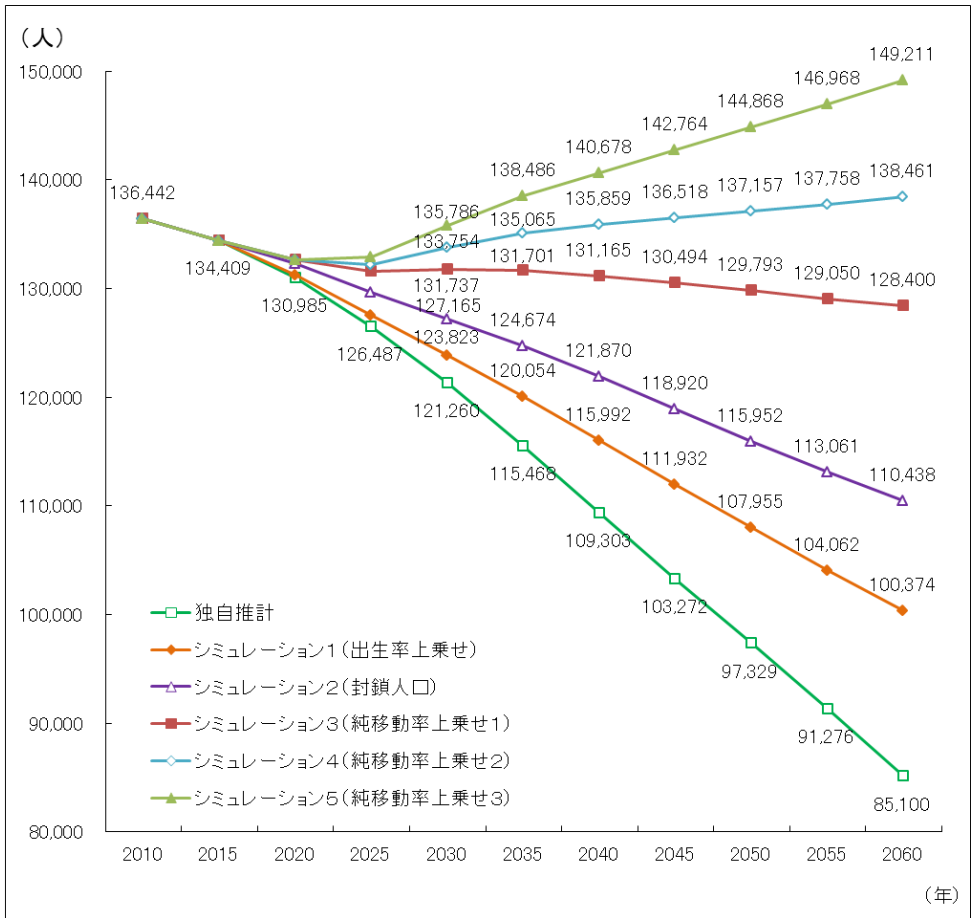


### 将来人口シミュレーションについて(人口ビジョン抜粋)



	合計特殊出生率	純移動率
シミュレーション1	国の長期ビジョンにおける仮定を参考にして設定 2020年:1.60 2030年:1.80(国民希望出生率) 2040年:2.07(人口置換水準)	変化なし
シミュレーション2	同上	男女別・年齢5歳階級別による純移動率を2015(平成27)年以降は0になるよう一律に改善(封鎖人口)
シミュレーション3	同上	男女別・年齢5歳階級別による純移動率を5年ごとに一律に改善 2015(平成27)年→2020(平成32)年:+1.0ポイント 2020(平成32)年→2025(平成37)年:+2.0ポイント 2025(平成37)年以降:+3.0ポイント
シミュレーション4	同上	男女別・年齢5歳階級別による純移動率を5年ごとに一律に改善 2015(平成27)年→2020(平成32)年:+1.0ポイント 2020(平成32)年→2025(平成37)年:+2.5ポイント 2025(平成37)年以降:+4.0ポイント
シミュレーション5	同上	男女別・年齢5歳階級別による純移動率を5年ごとに一律に改善 2015(平成27)年→2020(平成32)年:+1.0ポイント 2020(平成32)年→2025(平成37)年:+3.0ポイント 2025(平成37)年以降:+5.0ポイント

**解説**

**【純移動率とは】**  
 特定の時期及び場所における転入者と転出者の差を表す比率。社会移動率。  
 直近期間の封鎖人口(転出入が一切なく生残率のみで規定されると仮定した理論上の人口)と実際人口との差として純移動数を求め、その実際人口に対する比として算出します。  
 特殊な人口変動(ニュータウン開発や鉄道新設による大規模な人口流入など)がある場合、過去の実績純移動率を踏まえ、特殊な人口変動を勘案した上で別途見込むこともあります。将来人口を推計する場合、推計対象期間内で一定とせず、ある仮定の下で変化させる場合もあります(社人研の地域別将来推計人口では、平成32年までに0.5倍まで定率に縮小すると仮定しています)。

### 急激な自然減に歯止めをかけるためには？

	2015→2020	2020→2025	2025→2030	2030→2035	2035→2040	2040→2045	2045→2050	2050→2055	2055→2060
シミュレーション1による上乘せ人口概数	270	757	1,536	2,024	2,102	1,972	1,965	2,160	2,489
1年間に必要となる上乘せ人口	54	151	307	405	420	394	393	432	498

### 社会減を食い止めるためには？ 社会増を果たすためには？

	2015→2020	2020→2025	2025→2030	2030→2035	2035→2040	2040→2045	2045→2050	2050→2055	2055→2060
シミュレーション2による上乘せ人口概数	1,008	1,102	1,232	1,277	1,259	1,109	1,010	1,001	1,065
1年間に必要となる上乘せ人口	202	220	246	255	252	222	202	200	213
シミュレーション3による上乘せ人口概数	1,375	2,656	3,883	3,733	3,527	3,388	3,277	3,150	3,038
1年間に必要となる上乘せ人口	275	531	777	747	705	678	655	630	608
シミュレーション4による上乘せ人口概数	1,375	3,330	5,226	5,080	4,856	4,718	4,616	4,494	4,391
1年間に必要となる上乘せ人口	275	666	1,045	1,016	971	944	923	899	878
シミュレーション5による上乘せ人口概数	1,375	4,004	6,583	6,469	6,255	6,145	6,081	5,993	5,930
1年間に必要となる上乘せ人口	275	801	1,317	1,294	1,251	1,229	1,216	1,199	1,186

### (参考)直近10年間における下津地区における人口移動

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
前年比増減	196	127	845	431	507	562	561	594	566	199